

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫	北 島 政 樹	北 野 正 剛	小 西 文 雄
白 日 高 歩	堤 治	万 代 恭 嗣	東 原 英 二

本号は、産婦人科領域の特集号である。日本内視鏡外科学会雑誌は最近徐々に投稿数も増え、特集を必ずしも組まないで発刊できる状態に近づいて来ていることは喜ばしいことだと思っている。泌尿器科の編集委員として気にしている点は、泌尿器科医からの投稿数が少ない点であるが、それには本学会とはほぼ歴史的長さを同じくする日本エンドウロロジー・ESWL 学会があり、その学会雑誌 Japanese Journal of Endourology and ESWL があるためであることをご了承いただきたい。日本エンドウロロジー・ESWL 学会は、泌尿器科医が日本内視鏡外科学会に参加して腹腔鏡下手術をとともに学び、その発展に寄与していくことを勧めている。

さて、婦人科といえば、腹腔鏡下手術の生みの親である Dr. Kurt Semm のことを思い出す。彼が腹腔鏡下手術に必要な気腹装置や手術器具を開発した功績は大きい。小生が 1992 年に腹腔鏡下副腎摘除術をやろうと考えたときには、その気腹装置を入手することも容易ではなく、納入してくれた業者に大いに感謝したことや、市場で入手できる腹腔鏡下手術用鉗子は産婦人科手術用が主で、大血管に付着して位置する副腎を手術するには、まず副腎摘除術に適した鉗子を作製することから始めたことを思い出す。鉗子が出来て、さて副腎を摘除したときには数日の差で腹腔鏡下副腎摘除術実施 2 番目になってしまっていた。たった 8 年前のことであるが、もう遠い昔になってしまった。技術革新の進歩が幾何級数的に速くなってきているので、出来事が過去になっていくスピードが加速されてきていると感じる。そう感じるのには、あるいは齢のせいかもしれないが、機械や技術（自分が獲得する技術ではなく、ほかの誰かが獲得した技術）の進歩が加速されているように感じるが、自分たちにとって技術学習の効率曲線（learning curve）が幾何級数的とはいかない点が問題で、そこに教育と自身の技術修練の必要性が重要になってくる。

さて、少し話がそれたが、本号の特集を拝見していて婦人科領域でも悪性腫瘍が腹腔鏡下手術の対象になってきた点を感じる。後腹膜リンパ節郭清も根治を目指して行われており、婦人科以外の外科医や泌尿器科医にとって学ぶ点も多い。本学会雑誌を通じて、各科の医師が切磋琢磨して腹腔鏡下手術を前進させていくことが望まれる。

（東原英二）

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 6 巻 第 4 号) 2001 年 8 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価（本体 2,700 円＋税）（配送料 85 円）となります。

2001 年 年ぎめ予約購読料：16,500 円（配送料：医学書院負担）

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：出月康夫）

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当：佐々木、高柳) <http://www.mic.med.tohoku.ac.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku,

Tokyo, 113-8622, Japan

©2001, Printed in Japan

発 売：株医学書院（代表：金原 優）（本誌担当：田村、中田） <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷㈱ ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 ㈱文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。